

小学校西ブロック 10月例会 授業研究会

社会科学学習指導案

千葉市教育研究会社会科部会研究主題

社会の形成者として主体的に判断し行動する力を育てる社会科学習のあり方

1. 提案者 千葉市立打瀬小学校 元吉 佑樹
2. 単元名 ふるさとベイタウン発見伝
3. 授業展開 時間 14:00～14:45
場所 4年3組教室
4. 協議会 視聴覚室(1F)

1 単元名 ふるさとベイトウン発見伝

2 単元について

本単元は学習指導要領の目標（2）「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」に該当する単元である。ここでは、内容（5）「地域の人々の生活について、（中略）地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」のウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」を扱う。地域の発展に対する人々の願いや工夫・努力などを具体的に調べていく。

これまでに児童は、3学年の社会科で学校のまわりの絵地図を作り、打瀬地区や千葉市の特色ある地形・土地利用の様子、主な公共施設などの場所とはたらきなどを学んでいる。また、4学年の社会科で街を守る人たちの働きについて調べ、身近な人たちが地域を守るために工夫や努力をしていることについて知り、考えてきた。

過去をさかのぼり、現在の生活のルーツを探る歴史的な学習は、本単元が初めてである。したがって児童は、先人の思いや願い、努力が今の生活を支えているという認識にはまだ至っていない。そこでここでは、自分の生活と学習との関係性が理解しやすく、必要感を感じながら進んで取り組むことができる教材として打瀬地区を取り上げる。生まれ育った地域を教材として扱うことで、児童がより過去と今の生活を結び付けて学びやすいと考えた。地域を愛し、その発展のために尽くした人々のおかげで、今の豊かな生活があることを知る。そのことによって、地域がもっと好きになり、誇りと愛情を深められるようにしたい。

打瀬の町の歴史は浅く、数十年前までは海だったこともあり、町には歴史的な建造物も文化も、ほとんど皆無である。しかしこの町は、たくさんの人が関わり、計画的に作られてきた経緯をもつ。千葉県や企業各社、地域住民に至るまで多様な立場の人々が一緒に街づくりに参画し、埋立地の時代から今なお成長を続けている。その過程で、それぞれの人の思いが町を形作ってきた。現在のベイトウンを作っているのは、「こんな町にしたい」という人々の思いである。たくさんの人々の思いや願いが町づくりに反映されてきた、このような経緯こそがベイトウンの特性とも言える。このような地域の特性を生かし、様々な立場の人から町にかける思いを学ぶことで、今の自分たちの生活は人の思いによって作られてきたものであることを知らせたい。

本単元では、児童の社会に参画する態度を養うことを目指す。町に対して「自分にできることをしたい」と思うには、まず児童がこの町を大好きになることが必要である。児童が町に対してもっと知りたいと意欲をもち、自ら課題を発見し、追究するプロセスを大切にするため、単元を2つのまとまりで構成した。第1次は、ベイトウンを大好きになるため、町のことを深く知ることが目的である。児童の興味関心に沿って学習問題を作り、街のことについて探る学習計画を立てた後、「ベイトウンの先人」ともいべき人たちから、これまでの町づくりの経緯を学ぶ。ここでは地域住民、商工会会長、千葉県企業庁といったそれぞれ異なる立場の人々の思いを学ぶことで、ベイトウンがたくさんの人の思いによって形作られてきたことに気付かせたい。

今まで知らなかったベイトウンについて知り、地域への愛着を深めた上で、児童自身がベイトウンの生活者として地域をよくするために行動していこうとする意志や態度を養いたい。第2次では、将来のベイトウンについて考え、地域住民は先人の思いを知らないという事実から学習問題をつかむ。日々住民が入れ替わるこの町では、児童がこれまで学んできた人の思いは、伝えることなしには消えてしまう。そこに問題意識をもち、みんなが大好きな町を作っていくために自分たちにできることは何か、学んだことを生かして考え、実行させたい。

生まれ育った町に対して主体的に関わろうとする態度を養うため、学習の過程で児童同士の関わり合いを重視する。先人の働きや思いに対して自分が思ったことを表現し、友達の意見をしっかりと受け止める活動を通して地域の一員としての自覚と、大好きなベイトウンをみんなで大切にしていこうという思いをもたせたい。

3 児童の実態 (36名)

① ベイタウンには、いつから住んでいますか。

生まれた時から	1歳	2歳	幼稚園・保育園の時	小1以降
12人 (33%)	3人 (8%)	10人 (27%)	9人 (25%)	2人 (5%)

■街への意識

② ベイタウンが好きですか。

とても好き	どちらかという好き	あまり好きではない	好きではない
26人(72%)	7人(19%)	3人(8%)	0人

③ その理由はなんですか。(複数回答可)

<p><とても好き・どちらかという好き></p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれい(12人) ・ベイタウン祭りが楽しい(4人) ・お店が多い(4人) ・自然がある(3人) ・便利(3人) ・人が優しい ・他の街と違う ・公園が多い ・遊びやすい 	<p><あまり好きではない・好きではない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の街も好きだから(2人) ・自然がない(1人)
--	--

④ 大人になってもベイタウンに暮らしたいですか。

絶対暮らしたい	どちらかという暮らしたい	あまり暮らしたくない	別の場所がいい
17人(47%)	13人(36%)	3人(8%)	3人(8%)

⑤ その理由はなんですか。(複数回答可)

<p><絶対暮らしたい・どちらかという暮らしたい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れている(8人) ・住みやすい(6人) ・自然が多い(5人) ・マンションがきれい ・ごみ出しが楽 ・安全 ・友達がたくさんいる 	<p><あまり暮らしたくない・別の場所がいい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が少ない(2人) ・他の街に出てみたい(2人) ・飽きる ・もっと便利なところがいい
--	--

⑥ 家族の出身地はどこですか。

<p><父></p> <p>千葉(2人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川 ・埼玉 ・東京 ・富山 ・福島 ・宮城 ・大阪 ・兵庫 ・長崎 	<p><母></p> <p>千葉(3人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川 ・埼玉 ・東京 ・群馬 ・福島 ・山梨 ・北海道 ・島根 ・九州 ・沖縄
---	---

⑦ 家族の人は、ベイタウンの歴史について話をしてくれますか。

よく話をしてくれる	たまに話をしてくれる	あまり話をしてくれない	全く話をしてくれない
2人(5%)	13人(36%)	15人(41%)	6人(16%)

⑧ どんな話をしてくれましたか

<ul style="list-style-type: none"> ・この土地が昔は海だったこと(13人) ・現在の商店が昔は違うお店だったこと(2人)

■街への関わり

⑨ ご近所さんとは、どれくらいの知り合いですか？

よく話をして、一緒に ご飯を食べたりもする	よくあいさつをする	顔は知っているけれど、あい さつなどはめったにしない	顔も知らない
17人(47%)	18人(50%)	2人(5%)	0人

⑩ ベイタウンをよい街にするために、自分がじっさいにしていることがあれば書いてください。

- ・ごみをポイ捨てしない(12人) ・ゴミ拾いをする(6人) ・あいさつをしっかりとる(5人)
- ・募金活動に協力する(4人) ・水を大切に使う(4人) ・物を大切に使う(3人) ・友達をたくさん作る(2人)

⑪ ベイタウンをこれからよい街にしていくために、自分にできることはどんなことですか。(複数回答)

- ・ポイ捨てをしない(15人) ・ゴミ拾いをする(10人) ・ゴミを増やさない(7人)
- ・植物をたいせつにする(7人) ・友達をたくさん作る(5人) ・あいさつをしっかりとる(4人)
- ・節電をする(4人) ・安全に気を付ける(3人)
- ・みんなに優しくする(2人) ・お年寄りのお手伝いをする(1人)

〈考察〉

児童の実態調査より、ほとんどの児童がベイタウンの町を好きだと答えている。そのうちの多くが、「きれい」「お店が多い」「自然がある」と、目に見える環境について答え、町に対して肯定的なイメージをもっていることがわかる。一方で、「人が優しい」といった、一見しただけではわからない、ベイタウンに暮らす人の良さについて気づいている児童は若干名である。大人になっても住みたいかという質問に対しても、慣れていることやベイタウンの利便性について言及している回答が大半をしめている。

町の歴史について知っていることといえば「昔、ここは海だった」ということに限られ、そこに暮らす人々がどのような暮らしを営んでいたのか、それがどのように変化してきたのかについて知っている児童はいない。児童の7割弱はベイタウン以外で生まれ、両親の出身地も多岐にわたっている。そのため、保護者のベイタウンに対する歴史的な認識はそれほど深くなく、児童も町の歴史について学ぶ機会があまりないと考えられる。そのため、土地の成り立ちや人々が町を作るためにどのような思いをもち、どのような努力をしてきたのかにまで思いが及ぶ児童はいなかった。このような実態から、地域の先人の思いや願いに触れ、その働きに感謝の気持ちもてるよう、ゲストティーチャーとして先人を招き、直接お話を聞く機会を設定する。

子どもたちは、話をしたり、あいさつをしたりしながらよく町の人（主にご近所さん）と関わっていると見える。地域同士のつながりが希薄化している現代において、好ましいことである。一方で、自分自身と町とのかかわりでは、「ポイ捨てをしない」「水を大切に使う」「あいさつをする」等、4年生での社会科学習や日頃の生活態度が良く身についているとも言えるが、多くは一般的な回答に留まった。しかし中には、町をよくするために「みんなに優しくする」や「お年寄りのお手伝いをする」といった、人の気持ちに着目している児童もいる。学習の中で、このような児童の思いに目を向けさせて、実際に自分は何をしていくのかを考える力をつけていきたい。

4 単元の目標

○ベイタウンは様々な立場の人たちが関わってできてきた町であることを調べ先人の働きに感謝し、地域に対する愛情をもとに自分にできることをする。

○学習したことをもとに自分にできることは何かを考え、適切に表現する。

5 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 先人の働きに関心をもち、聞いたことや資料を生かしてその思いや願いを進んで調べようとしている。 町をよくするために自分にできることについて、進んで行動しようとする。
社会的な思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 先人の努力がベイトウンを作ってきたことを、資料などと結び付けてとらえている。 既習事項をもとに、感じたことや考えたことをノートにまとめたりしている。
観察・資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"> 先人の思いや願い・努力を、話を聞いたり資料を読んだりして具体的にまとめている。
社会事象についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 先人がどのような思いで町づくりをしてきたのかを理解している。 先人の思いが今のベイトウンを作ってきたことを、事実と結び付けて理解している。

6 単元の指導計画（14時間）

過程	主な学習活動と内容	時配
第一次 ベイトウンを作った先人の思いや願いについて知る。	つ ○町がどのようにしてできてきたのかを知り、疑問をもつ。 ・学級でのアンケート結果をもとに、町の好きな場所や特徴について話し合い、自分以外の人でもベイトウンが住みよい町だと感じていることに気付く。 ・資料をもとに、現在と50年前を見比べ、生活が大きく変化してきたことを理解する。	1
	か ○先人の話を聞き、ベイトウンには住民の願いが形になったものがあることを知る。 ○○さん ・ベイトウンには、「宝物」があるんだけど、知っているかな？ 1. コア(公民館)には、ほかの地域にはないピアノがあるんだよ。 ・そのピアノは、ベイトウンの住民が協力して買ったんだよ。 ・住民は月に1度、そのピアノを弾くことができるんだよ。 2. ラジオ体操は、地域の住民と小学生が協力して続けてきたよ。 ・3つの学校が協力してやっているところが特徴だよ。 ・みんなにベイトウンをもっともっと好きになってほしいな。	2
	○「ベイトウンの宝物」について話し合い、学習問題を作る。 ・○○さんのお話を思い出し、初めて知ったことや驚いたことについてまとめる。 ・「ベイトウンの宝物」とはどんなものなのかについて話し合う。 宝物=住民の思いや願いが詰まったもの ・学習問題を作る。 ベイトウンの宝物には、どんな思いや願いがこめられているのだろう。	1
	む ・疑問に思ったことについて話し合い、学習計画を立てる。 ・他に人の思いが形になったことはどんなことか知りたい。 ・最初に町を作った人たちは、どんな思いをもっていたのか知りたい。 ・どんな人たちが街を作ってきたのか知りたい。	

第一次

ベイトウンを作った先人の思いや願いについて知る。

調	<p>○ 地図を見ながら資料を読み、ベイトウンに対する人々の思いを調べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>千葉県企業庁 ○○さん</p> </div> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイトウンは、様々な立場の人がかかわってできたよ。 ・パティオスにある12星座には、「みんなで一緒に町を作っていこう」という思いがこめられているんだよ。 ・プロムナードという通りは、特に「みんなで一緒に」という思いがこめられていて、大好きな場所です。 ・これからも、みんなが好きなベイトウンを守って行ってほしいな。 </div>	1
べ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>ベイトウン商工会 ○○さん</p> </div> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイトウンは何もないところから始まったから、住民のみんなで作ってきた町なんです。 ・名物を作るためにみんなで話し合っ、お菓子やワインを売っています。 ・ベイトウン祭りも、商工会を中心に運営しています。 ・商店会のみんなで協力をして、にぎわいのある街になるよう活動しています。 </div> <p>○先人の思いや努力について、ノートにまとめる。</p>	1
ま	<p>○これまでの学習を振り返り、先人の思いや努力、願いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイトウンを作ってきた先人の具体的な働きについて考える。 ・先人が住みよい町を作るために努力をしてきたことに気付き、感謝の気持ちをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ベイトウンの宝物には、「すてきな町を作ろう」という人々の願いがこめられていた。</p> </div>	1
つ	<p>○資料をもとに話し合い、学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来のベイトウンについて、児童の作品や地図などを見ながら話し合う。 ・自分たちが今できることについて考え、学習問題を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ベイトウンをみんなが大好きな町にするために、自分たちにできることをやろう</p> </div>	1
む	<p>○グループに分かれ、自分たちが今できることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのノートや掲示物を見ながら、学習してきた先人の思いをもとに話し合う。 	
深	<p>○学習計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが大好きな町にするために何ができるかについて話し合う。 ・学習したことを伝えよう <ul style="list-style-type: none"> → ・全校に ・地域の人に ・海浜打瀬、美浜打瀬の小学生に ・お家の人に ・近所のお年寄りに ・自分たちで行動しよう <ul style="list-style-type: none"> → ・きれいな町にするために、ゴミひろい活動をしよう ・明るい町にするために、あいさつ運動をしよう 	3

第二次

町のために自分ができることを考える。

予想される活動

第二次

町のために自分ができていることを考える。

- ・学習したことを残していこう
→・「ふるさとベイタウンパンフレット」を作ろう。
 - ・〇〇さんとラジオ体操のお話を紙芝居にして読もう。
 - ・「子どもベイタウンニュース」を書こう。

- さらに知りたいこと、疑問に思ったことについて話し合う。
 - ・「人の思いや願いが詰まった宝物」について話し合う。

広
げ
る

- 自分にできることについてグループを作り、それぞれで調べ活動を行う。
- 宝物について新たに分かったことや、より詳しく分かった先人の思いについてまとめる。

3

○総合的な学習の時間と関連して

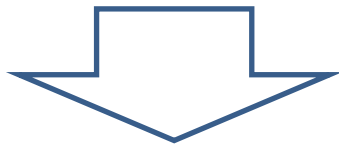
- ・呼びかけ ・資料作り
- ・地域の人を招き、
打瀬小、海浜打瀬小、
美浜打瀬小、コア（公民館）
で展覧会を開く。 等

地域への愛着をもとに

2
分
の
1
成
人
式

7 市教研の研究主題との関連

社会の形成者として主体的に判断し行動できる力を育てる社会科学習のあり方



本年度主題説明のための方策（市教研社会科部会研究計画案より）

- ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ② 児童生徒に調べ方や学び方を習得させる指導と評価のあり方を明らかにする。
- ③ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ④ 児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ⑤ よりよい社会を築こうという意思をもって行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

本単元では、次の2点について重点的に取り組んでいく。

- ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

児童が自ら、意欲的に学習を進めていくためには、学習していることと自分自身の生活との関連を感じられるようにする必要があると考え、ベイトウンを教材とした。この地域の特性である、様々な立場の人が町づくりに関わり、それぞれの思いが実現されてきたことを学ぶため、「地域住民」「千葉県企業庁OB」「幕張ベイトウン商店会」の3名の方にご協力いただく。それぞれの方々からベイトウンの先人として町づくりにかける思いや願い、これまでの努力などについて学んでいく。

〇〇さんは地域住民として、コア（公民館）の構想や、ラジオ体操を始めとして、住民の人々と町とのつなぎ役として活躍してこられた。特にラジオ体操は今年参加者が1000人を数え、学区の枠を超えた交流の場となり、子どもたちの文化に深く関わってきている。〇〇さんは千葉県企業庁幕張新都心整備課として行政の立場からベイトウンの町づくりに関わり、「町・人・住宅がつながる町」という理想を掲げ形にしていかれた。〇〇さんは商店会会長として、ベイトウンにある商業施設を束ね、町開きから続く恒例イベントとなっているベイトウン祭りを企画・運営されてきた。

いずれの方も、それぞれの働きが児童の生活と直結している。3名の先人の思いからベイトウンについて学ぶことで、学習をより身近に感じ、学習課題を自分のこととしてとらえ意欲をもって進められるようにしたい。

- ⑤ よりよい社会を築こうという意思をもって行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

よりよい町をつくっていかうと行動していくためには、まず町を好きになることが必要である。本学級の児童はベイトウンは感覚的に好きだが、誇りや自慢できることをもっているわけではない、「なんとなく好き」の状態である。「なんとなく好き」な状態を愛着に変え、さらに自分にできることを自ら考えることができるようにするため、本単元を2つのまとまりで構成し、単元を通して2つの学習問題を立てることとした。

第1次で先人の思いや願いについて学び、町全体が人々の思いが詰まった「宝物」であるという認識をもとに、「町を大切にしたい」「町が大好き」という思いをもたせたい。その思いを生かし、第2次で大好きな町をもっとよくしていくために自分にできることは何か、様々な意見や考えを交流する中で考えていく。先人の思いや願いをもとに話し合った、児童自身の思いも含めた活動につながるようにしていきたい。

8 本時について

① 目標

・学習してきた事実をもとに地域のために自分にできることを考え、表現することができる。

②展開 (8 / 14)

時配	学習内容と活動<○子どもの姿>	指導上の留意点<◇評価>	資料
導入 7分	1. 20年後のペイタウンについて話し合う。 ○今よりもっといい町になっている。 ○人がいなくなっていたらどうしよう。 ○○○さんは、みんながもっとペイタウンを好きになってほしいと言っていたよ。 ○○○さんは、住民が自分たちで町を守ってほしいと言っていたね。 ○○○さんは、ペイタウンを元気な町にしたいと言っていたよ。	・自分たちの問題として話し合いができるよう、児童の作品を紹介させる。 ・地域の先人の想いや願いを想起できるよう、掲示物や写真を見ながら学習を振り返る。 ◇先人の働きや思いについて理解している。	・児童のかいた作品 ・先人の願いと写真
展開 15分	2. ペイタウンの住民にとってアンケート結果を見て話し合い、学習問題を作る。 ○住み続けたいという人は少ないね。 ○みんな街のことをよく知らないみたい。 ○宝物のこと、みんな知らないんだね。	・自分たちの問題としてとらえることができるよう、身近な人たちへのアンケートをグラフにして提示する。 ・学区を越えて現状を捉えることができるよう、他の2つの小学校の結果を示す。	・アンケート結果
ペイタウンをみんなが大好きな町にするために、自分たちにできることをやろう			
12分	3. グループに分かれて話し合う。 ○みんなが大好きな町になるように、ペイタウンの宝物を伝えていきたい。 ○元気な町になるように、ペイタウンの小学校に呼びかけてあいさつ運動をしよう。 ○きれいなペイタウンを自分たちの手で守るために、ペイタウンの小学校に呼びかけてゴミ拾い活動をしよう。	・一人一人が意見をもてるよう、考えたことをノートにまとめさせる。 ・地域の先人の願いをもとに話し合うことができるよう、活動の理由をしっかりと話し合うよう助言する。 ・学級全体に考えを広めることができるよう、活動内容とその理由を画用紙にまとめさせる。 ◇先人の思いや願いをもとに考えた自分の意見を表現している。	・画用紙
まとめ 10分	4. グループごとに話し合った結果を発表し合う。 *予想される活動 ・「町を大好きにする活動」 ・「町を元気にする活動」 ・「町を守る活動」 5. 次時の予告をする。	・先人の思いや願いをもとに表現できるよう、「大好き」「元気」「守る」の3つのカテゴリーにわけて画用紙を貼り出す。 ・活動計画を立てることを伝える。	